令和２年度　大社高等学校　学校評価

※生徒・保護者・教職員評価の「評価」欄の基準は肯定的評価の％：A：80%以上　B：65～79%　C：50～64%　D：50%未満、 全体の「評価」欄は学校関係者評価委員会の意見等を考慮した総合評価

《教育目標》 郷土に思いをいたし、こころ豊かで、たくましく生き抜く実践力のある人材を育成する

重点目標		担当	評価項目	生徒評価 評価	生徒評価 肯％	生徒評価 評価	保護者評価 評価	保護者評価 肯％	保護者評価 評価	教職員評価 評価	教職員評価 肯％	教職員評価 評価	評価	自己評価（※太字＝反省点など）	改善策	学校関係者評価委員会での意見等
豊かな心の育成	（1）基本的な生活習慣の確立	生徒指導部	規律ある生活習慣が確立できるように、全職員で指導できたか	3.2	80	A	3.0	85	A	2.8	69	B	B	・登下校時や冬季における服装など、一部規則を守れない生徒もいるが概ね良好である。 **・1年生を中心に校内での携帯電話使用で指導されるケースが目に付いた。**	・全教職員が校則に関する共通理解をもって指導できるよう、校内の連携を深める。 ・携帯電話の不正利用について、校内の指導体制を強化する。	（４）コロナ禍で厳しい練習環境の中、サッカーの全国大会出場など多くの部活動で生徒の活躍が見られたことはすばらしい。 ・今年は、直接生徒の学習活動の様子を見たり、関わったりする機会がなく、評価しにくいし、意見を持ちにくいと感じている。 （５）コロナの影響でコミュニティセンター事業へのボランティア参加の機会が大変少なくなり残念だった。次年度もコミュニティセンターでまとめてボランティアを募集する予定であるので、生徒の参加を期待したい。
	（2）生徒理解に基づく教育の促進	保健部	生徒の心身のさまざまな問題について、保護者、スクールカウンセラーなどと連携して、相談・対応できる体制が整えられていたか	3.2	86	A	3.1	88	A	3.4	100	A	A	・スクールカウンセラーから具体的な対応について助言を受ける事ができた。不安を抱える生徒について、関係者によるケース会議を開くことで、支援の方向性を共有できた。	・支援の必要な生徒について、新入生だけではなく、次の学年への情報伝達の仕組みも考える。	
	（3）互いの人権を尊重する学校づくり	人権・同和教育部	人権講演会や学校生活アンケートの実施等を通して、人権意識を大切にする教育を推進できたか	3.3	89	A	3.0	88	A	3.2	96	A	A	・LGBTなど、性の多様性に関する有意義な教職員研修を実施できた。 ・学校生活アンケートや人権推進委員会を通して校内で発生したいじめ等の諸問題に対して対応することができた。制服検討委員会で制服のあり方の見直しができた。 ・コロナ禍で多くの活動は制限されたが、コロナ禍における人権問題をテーマとしたHR活動の指導案をつくり1・2年生で実施できた。 **・望ましい人間関係の構築については、まだ不十分なところも見受けられる。**	・人権・同和教育全体計画の様式変更に伴い、取組のあり方について検討する。 ・引き続きアンケートを行うとともに、情報の共有化を図る。 ・隣保館研修については、研修のあり方を工夫して行う。 ・地域社会に貢献できるような活動として実践するとともに、豊かな人間関係構築に向けて全教職員で情報共有を行い、足並みをそろえて指導にあたる。	
		教職員研修や人権HR活動等、人権について学ぶ機会を充実させることができたか								3.3	100	A				
		体育科	あらゆる教育活動の実践を通し、体育科生徒が望ましい人間関係を構築できるようサポートできたか（体育科）							3.0	83	A				
	（4）人格形成の場としての部活動の推進	体育科	安全かつ健康的に部活動に取り組み、納得のいく結果を残すことができたか（体育科）	3.4	90	A	3.2	85	A	3.2	95	A	A	・多くの部活動顧問には土日も返上して指導にあたってもらっており成果も上がっている。 **・コロナ禍の状況により対外的なボランティア活動を積極的に実施する事はできなかった。**（参加事業：8件（14件）、参加人数述べ46名（119名）、()内は昨年度） ・挨拶はについては、おおむね良好である。	・教員が積極的に部活動に係わり、生徒同士の適切なコミュニケーションが図れるとともに、指導がバランス良く行われるようはたらきかける。 ・地域のコミュニティーセンターやボランティアセンター等と連携し、生徒が地域貢献できる機会の発信に努める。	
	（5）ボランティア活動の推進	生徒指導部	部活動やボランティア活動に積極的に取り組めるような指導ができたか							3.1	91	A				
学力の向上	（1）思考力・表現力を育む授業の推進	教務部 2年部	研究授業・公開授業・授業評価等の実施により、授業の改善とそのための指導法の共有化が図られたか	3.2	87	A	3.0	85	A	2.7	62	C	B	**・学習時間調査結果について、教科会に比べ、学年会との連携は不十分であった。** **・公開授業週間については、あまり活発に行えたとは言えなかった。** ・コロナ禍でICTの活用が叫ばれる中、本校でも授業改善に関する研修や取り組みが行われたが、これを**教職員全体で共有し、どう生かすかという点については不十分であった。**	・学習時間調査については、処理を早くしてタイムリーに活用できるようにする。 ・公開授業週間、授業改善の取組については学校全体でのあり方を検討する。 ・ICT教育の担当部署を明確にするとともに、オンライン授業への対応を進める。 ・大社高校のめざす方向が明確化された新教育課程の編成を行う。	（１）オンライン授業等、ＩＣＴの活用については、先進事例の情報を収集しながら積極的に進めてほしい。 ・学力の向上に先生方は大変努力をしているが生徒アンケートなどを見ると生徒が自ら学ぶという強い意欲や学習（家庭学習も含め）に対する意識が低いように感じる。 ・思考力・表現力を育むための授業改善等、また探究的学習の充実は学校教育の主要課題であり、教員一人一人の継続的な取組が必要と思う。このことに関わる教職員の自己評価がせめてＣ→Ｂになるよう「改善に向けて取り組んだ」という充実感が得られるような学校経営・学校運営を期待している。 （４）コロナ禍の中、他者・他団体と交流しながら主体的に学ぶことは難しかったと思われる。「探究的に学ぶ」とはどういう事か、どういう目的を持ち、どのような方法で解決するかといった探究的思考過程をしっかり学習することも、現状の中では大切なことと思われる。 （６）図書の貸出数が年々増加していることはすばらしい。 ・活字アレルギーをなくし、創造的思考を拡げる意味でも読書や新聞に目を通し、長文に慣れ親しむ必要があると思う。あくまでも生徒自身の読書意欲が必要と思われる。
	（2）互見授業・授業研究の促進 （3）ICT教育の充実		生徒が学習習慣を確立し，自らの学習課題の把握によって主体的に学ぶことができるように，担任と教科担当が連携して支援できたか（2年部）	3.2	84	A	3.0	81	A	3.1	93	A				
	（4）総合的な探究学習の充実 （5）大学訪問・県外研修の充実	教育研究部 1年部 2年部	「総合的な学習（探求）の時間」において、各学年のねらいを明確化した指導計画を作成し、効果的に実施できたか	3.4	89	A	3.0	83	A	2.6	58	C	B	**・コロナ禍の混乱の中、年間指導計画・活動のねらいなどが明確に提示できなかったことで関係する先生方との連携について一部混乱を招いた場面があった。** **・活動ごとの観点や評価基準があいまいなところがあった。** ・生徒一人一人が身近な問題を設定し、情報収集しながらまとめていく活動ができた(1年部)。 ・コロナ禍で県外研修等はできなかったが、フィールドワークや島根県立大学との連携によるオンライン発表会ができた。(2年部)。	・計画やねらいについては、年度初めに全教職員で共有・検討する機会をもつ。 ・評価方法（ルーブリックの作成など）について検討する。 ・「社高生の社会常識」について計画の中の位置づけを明確にする。 ・今未来手帳を全教員に配布し、情報共有するとともに生徒への指導に生かす。 ・研修旅行の位置づけを明確にし、日常の学習と有機的につながるものとする。	
			生徒が学習習慣を形成し、主体的に学ぶ姿勢を育むような授業の改善や、課題の内容や提示時期を吟味することで、家庭学習を充実させることができたか（1年部）							2.9	79	B				
	（6）図書館の学習センター的活用	教育研究部	図書館だより、授業、朝読書、展示等を通じて、読書や図書館活動を推進することができたか	3.1	76	B	2.9	78	B	3.4	98	A	B	・図書館だよりを定期的に発行し、HPに掲載するなど、継続的な情報発信ができた。 ・年度初めに教員向けの図書館利用案内を配布したが、教科利用は例年並みだった。 ・朝読書を2度実施したが、実施時間や方法について様々な意見をいただき、2度目にはより効果的な方法を実現できた。	・引き続きHPを利用した情報発信を行うとともに、授業における計画的な図書館利用を促す。 ・朝読書が生徒の読書習慣につながるよう、事前事後指導を工夫するとともに、図書委員会の活性化を図る。	
進路志望の実現	（1）個に応じた進路指導の充実	進路指導部 3年部	進路希望調査やスタディサポート、進路検討会を通して、生徒の進路志望や思いを的確に把握し、担任と協力してアドバイスや相談ができる体制を整えていたか	3.5	93	A	3.2	93	A	3.2	96	A	A	・進路研修会で、3年間を見通した進路指導の流れについて共通理解をもつことができた。 **・生徒自身が進路意識を高め、早期に目標設定を促す取組については十分でなかった。** ・学習時間調査の結果からも、**進路実現に向けた学習量については十分とは言えない。** ・面接・小論文の早期指導については、関係者で連携を取りながら適切に実施できた。	・1，2年生向けの進路説明会や進路学習等、時機に応じた情報提供を行う。 ・学年会や各教科とも連携しながら、生徒の学習時間を増やす方策を考える。 ・小論文指導については、関係部署と連携しながら、1、2年次での学習との関連性を考慮して行う。	
			進路指導部や教科担当等と連携して、生徒の進路志望実現への適切な支援ができたか（3年部）	3.4	90	A	3.2	92	A	3.2	93	A		・進路検討会や面談等を通じて、進路志望に添った支援や新入試に対応する指導ができた。 ・1・2年次からの体験活動の成果が進路実現に繋がったケースは相当数あった。	・検討会前後の面談時間をできるだけ多く確保する。 ・ボランティア活動や体験学習が可能になれば、積極的な参加を促す。	
	（2）模試結果など各種情報の提供と分析 （3）大学入試改革への対応・情報発信 （4）各補習の充実	進路指導部 体育科	各教科や担任と連携しながら補習や模試、面接・小論文指導を効果的に行えたか	3.2	82	A	3.0	82	A	3.3	93	A	A A	・コロナ禍で模試の変更を強いられたが、柔軟に対応できた。模試分析も比較的早くできた。 **・進路希望調査やスタディーサポートの活用については、不十分なところがあった。** ・大学・企業への訪問、各種研修会等への参加はコロナ禍でほとんどできなかった。 ・進路検討会については、関係者で協力して実施でき、生徒の進路実現に繋げられた。	・模試分析を早く行い、各教科へのより適切な提案や指摘ができるようにする。 ・模試が生徒の学力身長につながるよう、生徒に模試の復習や見直しを促す。 ・スタディーサポートは校内の説明会を充実させ、生徒の特徴、傾向を把握する。 ・3年進路検討会については、参加教員が増加する方法を協議し、はたらきかける。	
			多岐にわたる進路選択に対し、適切な情報を提供し、進路の実現に向けた取り組みができたか（体育科）							3.2	97	A	A	・「進路の栞」で共通テストや新しい選抜方法などの情報を提供することができた。 ・各補習や演習、個別対策講座等については計画的に実施することができたが、**推薦選抜による進路決定者の取組には課題が残った。**	・学年部と連携し、適切な時期に適切な内容の進路学習を計画的に実施する。 ・進路決定者の補習参加については、参加する趣旨をきちんと理解させ、しっかりと学習に取り組むよう指導する。	
信頼される学校	（1）地域や小中学校、同窓会への情報発信と連携	総務部	PTA総会・評議員会・教育研修会、HP・『社高の風』・『PTA通信』などにより、家庭や地域へ積極的な情報発信をし、開かれた学校づくりが推進できたか				3.2	84	A	3.4	98	A	A	・第1回評議員会、PTA総会と第1回学年PTAは緊急事態宣言下の休校で中止した。 ・教育研修会の参加者は、昨年度より大幅に増加して内容も大変好評だった。 ・HPの更新、「社高の風」、「PTA通信」の情報発信については概ね達成できた。	・学年PTAは、内容の充実を図りながら、各学年とも年2回実施する。 ・PTA関連行事への参加については、引き続き丁寧に説明してはたらきかける。 ・部活動・学年会・他の分掌等の協力を図り、HP更新を適切に行う。	（１）ＰＴＡ研修会は参加者も多く充実した研修会となった。今後も多くの参加が得られるよう、研修内容を工夫して欲しい。 ・Ｒ３年度高校入学者選抜の出願状況を見ても大社高校の魅力が伝わっていると感じる。今後も大社高校の魅力をしっかり伝えてほしい。 （２）コロナ禍の中で学校運営も困難な状況であったが、オープンスクールなど各種行事を工夫しながら実施できたことは良かったと思う。 ・コロナ対応など、舎監の先生、食堂の環境等大変であったと思う。
			オープンスクールの充実を図るため、中学校への積極的な呼びかけや実施方法・内容の改善・工夫ができたか							3.3	95	A		・コロナ禍ながらオープンスクールを8月中旬にグループ分けして実施できた（約700名参加）。 ・生徒会の協力で制作した学校紹介の動画は大変好評だった。 ・これに参加できなかった中学3年生に対し、9月末にフォローを実施した（約10名参加）。 ・生徒個人がWeb申し込みする方法に改めたことは、良悪両方の評価があった。	・オープンスクール＜フォローを含む＞では、他の分掌・教科等の協力を得ながら、実施できるところから改善していきたい。	
		教務部	高校説明会・中高連絡会・公開授業等を充実させ、本校への理解促進と求める生徒像の周知徹底を図ることができたか							3.1	85	A		・中学校への説明会は、新型コロナウイルス感染予防のため実施できなかったが、説明用のDVDをつくり、学校紹介などを行うことができ、入学志願者も増えている。	・来年度も説明会を実施できない可能性があるので、より魅力を伝えることができるための資料作成を進めていきたい。	
	（2）安全で安心して過ごせる学校や寮運営 （3）生徒・保護者面談の充実	生徒指導部	安全で安心な生活習慣が確立できるような指導ができたか	3.3	87	A	3.0	84	A	3.1	91	A	A	・生徒・教員による登校指導を2回行い、交通安全上の問題はなかったが、**登校時の挨拶については十分とは言えなかった。** ・年度後半に登下校時の事故が目立った。不審者によるトラブルは報告がなかった。	・交通安全講話等も積極的に導入し、日常に潜む危険についてしっかり理解させる。 ・いただいている地域の方からの苦情についてはできるだけ生徒にも周知し、指導に繋げる。	
			いじめの防止・発見、いじめの組織的な対応ができたか	3.1	80	A	3.0	87	A	3.3	98	A		・教職員研修を行うとともに、生徒向けアンケートも3回行った。これによりいじめの把握がなされ、関係教職員により概ね適切な対応がなされた。	・生徒間のいじめの問題だけでなく、教員の言動に対する指摘もいただいており、教職員研修会等の機会を充実させ、教職員の人権意識の高揚を図る。	
		総務部	危機管理の立場で、人命を尊重し実践に即した防災避難訓練等を実施し、緊急時の迅速な連絡体制を確立することができたか							3.3	98	A		・コロナ禍で第1回避難訓練は実施できなかったが、第2回以降は内容を修正し実施できた。 **・緊急連絡メール送信については、他校に比べて遅いとの指摘があった。**	・避難訓練については、可能なところから改善を図る。 ・素早く、確実に生徒や保護者への緊急連絡メールが届くような改善を図る。	
		保健部	清掃活動や安全点検等の取り組みは適切であったか							3.3	98	A		・コロナ禍ではあるが、マニュアルの作成等により掃除の取組状況は概ね良好であった。 ・掃除時間に新型コロナウィルス対策としての消毒作業も行うことができた。 ・生徒環境委員会の活動として、掃除用具の点検及び補充・交換(学期に1回)、清掃中の見回りやゴミの分別等のチェックを行うことができた。 ・校内の安全点検を実施し、整備が必要な箇所について速やかに対応した。	・新型コロナウィルス感染症対策への意識喚起につながる呼びかけについては、掲示物等によって引き続き行う。	
		1年部	生徒が自他の人権を尊重し互いを認め合う集団となるような支援や、規則やマナーを守る態度を育て安心・安全な学習環境を整えることができたか（1年部）							3.1	90	A		・入学後の休校措置により、学校生活における新たな人間関係の構築に影響があったが、再開後は合唱コンクールや球技大会等の行事を通してクラスの集団づくりを支援することができた。 ・生徒との面談やアンケート等から得られた情報を学年会や関係部署と共有し対応できた。 **・携帯電話の不正使用や、教室内・ロッカーの上などの私物の放置等、規則やマナーを遵守させて学習環境を整える指導については十分でなかった。**	・日常生活において生徒の言動に留意し共通理解を図るとともに、問題が発生した場合には早期に学年集会を設定して学年全体の問題として指導する。 ・気になる生徒の状況を学年会で情報共有し、教科担当や部活動顧問と連携するとともに、必要に応じて保護者との面談や家庭訪問等も実施する。 ・規則やマナーについては、定期的に朝終礼を利用して注意喚起する。	
		2年部	自らの言動に気を配り、適切にコミュニケーションをとりながら互いを高め合う集団となるよう支援して、安心・安全な生活環境を整えることができたか（2年部）							3.0	93	A		**・コロナ禍で、集団活動を通じてお互いを高め合うような支援は不十分であった。** ・他者への配慮を欠いた言動や様々な原因から学校生活に不安を抱える生徒等が見受けられ、対応に多くの時間を要した。 **・遅刻、服装などの乱れが目立つ。**基本的生活習慣の確立にはまだまだ時間がかかる。	・生徒が行う活動が生徒間のコミュニケーション力向上に繋がるようはたらきかける。 ・生徒の様子を観察し、機会を捉えた指導や人権意識を高める授業を行う。	
		3年部	特別活動や部活動等を通じて最高学年の自覚を持ち、お互いを理解し認め合う集団づくりや人間的な成長への支援ができたか（3年部）							3.1	95	A		・互いの個性を理解し認めあう雰囲気が見られるようになった。気になる生徒については学年会で情報共有し、適切に対応できた。 ・節目節目で最高学年としての自覚や責任を持たせるための支援を行い、概ね達成できた。 ・コロナ禍で制限のある部活動等の中、生徒が創意工夫しながら活動し成長に繋がった。	・面談やアンケートの結果、生徒の日頃の様子等、気になることがあれば日常的に情報共有することで、問題の早期発見・早期対応に心がける。 ・部活動に対する意欲がその生徒の学校生活全般によい影響を与えられるように、教職員全体で指導する。	
		舎務部	寮生のライフスキルが向上するように指導できたか							3.1	91	A		・出雲農林高校との共同利用が始まった上にコロナ対応も加わり、余裕のない状況であった。 ・寮生による自主運営の意識付けについては、当初の思い程ではないが概ね達成できた。 **・「一人一日一奉仕活動」については、取り組みに個人差があった。** ・アンケート結果は昨年以上に良好であった。食事についても改善の要望はかなり減った。	・学校間の取り組みに差がないよう学校間及び関係者の連携を綿密にするとともに、舎務部と舎監教員との連携がさらに強いものとなるようはたらきかける。 ・生徒の自治意識、自己管理意識をさらに高めるようにはたらきかけるとともに、アンケートを少し早めの9月中旬に実施し、9月下旬に三者会議を行う。	